

1 審議会等の名称	令和7年度 第1回三重県観光審議会
2 開催年月日	令和7年7月1日（火）
3 委員	【会長】 埼玉大学 教授 石阪督規 他11名出席 計12名
4 諮問事項	インバウンド戦略策定に向けた審議、三重県観光振興基本計画（令和6年度から令和8年度）に基づく令和8年度アクションプラン（案）の策定に向けた令和6年度の取組の振り返りと今後の取組方針に係る審議等
5 審議概要	委員からの主なご意見は、以下のとおりです。 ＜インバウンド戦略策定に関すること＞ ・ 季節ごとに三重のどの観光コンテンツがどの国に対して効果的か分析したうえで、複数のターゲット国を選定し、ポートフォリオを組む必要があると思われる。 ・ インバウンド数を増やすためには、他の地域にはない独自の観光コンテンツを造成する必要がある。 ・ 令和6年度に三重県観光連盟の会員で構成するインバウンド委員会を立ち上げたが、計88者の団体に集まっていたき、インバウンドへの関心の強さを感じる。 ・ 遷宮行事が始まった伊勢だけではなく、三重県内の周遊型のコンテンツもあわせてプロモーションすることで、県下全域での長期滞在につなげていくことが大切だと思う。 ・ 香港、台湾及び欧米諸国から誘客するためには、魅力的な観光コンテンツを作り、コンテンツの内容をしっかりと届ける必要がある一方で、中国や東南アジア諸国から誘客するためには、SNSやインフルエンサーを活用したプロモーションが有効である。 ・ 令和元年比で復便が遅れている中部国際空港を強化する方法を検討する必要がある一方で、関西国際空港をはじめ、ほかの空港をゲートウェイ化できるかもポイントである。 ・ インバウンドや関西国際空港近隣のホテルのコンシェルジュに三重県の観光コンテンツやアクセス方法を周知する必要がある。 ・ 高付加価値旅行者層を誘客するには、旅行会社との人間関係の構築が必要だと思う。 ＜令和8年度アクションプランに関すること（外国人延べ宿泊者数及び平均宿泊日数の増加に向けた取組）＞ ・ ストーリー性のある2泊3日のモデルコースを作り、しっかりプロモーションしていくことと、それによってどれくらい関心が寄せられて、どれくらい実際に来県した人がいるのか、数字を確認しながらコースの磨き上げや旅行会社と連携する等発展した取組を考えていく必要がある。

	・ 早朝や夜の時間帯に楽しむ観光コンテンツを造成するべき。 ・ 大阪・関西万博から三重県は距離があるので、大阪・関西万博に行ったついでに三重県に泊まってもらうことは難しいと感じる。 ・ 観光庁の補助金利用について、県からサポートしてはどうか。 ・ 受け入れ側のおもてなしの姿勢がないと宿泊者の心証が悪くなりおすすめもしたくなくなるので注意が必要だと思う。 <その他> ・ 次期観光振興基本計画の目標を考え始めていく時期だが、観光消費額を主目標にしていると実際県内にどれだけお金が落ちているかわからないので、経済波及効果を主目標に据えることを検討する必要がある。 ・ 目標は一律に設定するのではなく、地域の特性を踏まえて地域ごとに設定することで、目標を達成するための地域ごとに取り組むべき課題が見えてくると思う。 ・ 現行の計画では目標とする KPI が多すぎるのではないか。
--	---